

事業所名

児童発達支援事業所・放課後等デイサービス
どリーむキッズよしの川

支援プログラム

作成日

令和6

年

12

月

1

日

法人（事業所）理念		寄り添うケア											
支援方針		障害児が日常生活における基本動作を習得し、及び集団指導に適応することができるよう、障害児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び訓練を行うものとする。 指定通所支援の実施に当たっては、地域との結びつきを重視し、通所給付決定保護者の所在する市町村、その他の指定通所支援事業者、指定障害福祉サービス事業者、その他の福祉サービス又は保健医療サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。											
営業時間		月～金	9	時	0	分から	18	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	児童の心身の状態を細かくみて確認し、健康状態の把握に努め、異変時の対応を速やかに行う。特に意思表示の困難な子どもの特性に配慮し、ひとりひとりの子どもの力をひき出し、その子に適した支援を行う。基本的な生活習慣の自立にむけて適切なタイミングで支援をしていく。将来の生活を自分で組み立てられるような行動ができるよう支援する。											
	運動・感覚	いろいろな活動・遊びを通して感覚に働きかけ、障害の状態や発達段階に応じ身体能力の向上、維持のための支援を行う。 感覚の過敏等特性に配慮し環境調整を行う。											
	認知・行動	ひとりひとりの子どもの認知の特性を理解しながら、自分に入ってくる刺激や情報が受け止めやすいような支援を行う。 五感に働きかける活動を取り入れ、いろいろな物・音・数や重さの概念につながるように工夫し、行動障害の予防の対応につなげていく。											
	言語 コミュニケーション	障害の種類や程度に応じて言葉だけでなく身振りや表情、簡単なジェスチャーやサイン、絵カード等で意思伝達ができるように支援する。 子ども会や帰りの会などの場面で自分の意見を表すことができる機会をつくり、他児童の話を持って聞くことができるよう声かけ支援を行う。又、グループ、個別で言葉の遣い方を考え、その場と状況に合ったコミュニケーションをとれるように支援する。											
	人間関係 社会性	自分の感情や気持ちなどに関心を持ち、不安定になった時に相談できることで自分で折り合いがつけられ安心できるように支援する。また、様々な遊びを通して模倣したり見立てることを学んだり、ごっこ遊びなどから社会性の発達を支援する。集団遊びや行事の参加により手順やルールを守ることを学び共に活動しながら仲間づくりにつなげていく。											
家族支援		保護者と日々の連絡を密にする。相談支援事業所・学校・子育て支援課等の連携を図ると共に利用児童を中心に家族・きょうだいへの支援にも必要に応じ関わっていく。家族会の実施（年1回）により保護者間の交流の機会を提供する。						移行支援		地域の小中学校と支援学校の移行、利用サービス事業所の変更・就労支援事業所等に必要な情報提供を行う。			
地域支援・地域連携		地域に外出（見学・買物訓練）する機会を多くし、地域の人との関り地域資源を知り、マナー教育につなげる。						職員の質の向上		法人の研修委員会の研修計画に基づく全体研修と障害部門での研修、事業所内の勉強会、外部研修への派遣にて研鑽を積んでいる。			
主な行事等		季節を感じる行事・お花見・花植え・シャボン玉・七夕飾り・水遊び・落ち葉拾い・クリスマス・大掃除・正月飾り・書初め・卒業セレモニーなど 社会見学（農産市・工場見学・防災センター・図書館・消防署・交番・美術館） 避難訓練（火災・地震・洪水）防犯訓練、防災散歩 調理実習（季節のおかし作り）											